

感染防止に留意した市民による救急蘇生法について（指針）

1. 基本的な考え方

新型コロナウイルス感染症を始め、すべての心停止傷病者は何らかの病気に感染している疑いがあるものとして対応する。

成人の心停止に対しては、人工呼吸を行わずに胸骨圧迫とAED による電気ショックを実施する。

子どもの心停止に対しては、講習を受けて人工呼吸の技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思がある場合には、人工呼吸も実施する。

※子どもの心停止は、窒息や溺水など呼吸障害を原因とすることが多く、人工呼吸の必要性が比較的高い。

2. 救急蘇生法の具体的手順

反応を確認するときと呼吸を観察するときは、傷病者の顔と救助者の顔があまり近づきすぎないようにする。

胸骨圧迫を開始する前に、ハンカチやタオルなどがあれば傷病者の鼻と口にそれをかぶせる。マスクや衣服などでも代用できる。

成人に対しては人工呼吸を実施せずに胸骨圧迫だけ続ける。

子どもに対しては、講習を受けて人工呼吸の技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思がある場合には、胸骨圧迫に人工呼吸を組み合わせる。手元に人工呼吸用の感染防護具があれば使用する。感染の危険などを考えて人工呼吸を行うことにためらいがある場合には、胸骨圧迫だけ続ける。

心肺蘇生の実施の後

救急隊の到着後に、傷病者を救急隊員に引き継いだあとは、速やかに石鹸と流水で手と顔を十分に洗う。傷病者の鼻と口にかぶせたハンカチやタオルなどは、直接触れないようにして廃棄するのが望ましい。

※上記手順に記載のない点は、従来どおりの一次救命処置を実施する

救命処置や心肺蘇生法などに関する動画を作成しました。下記二次元コードからyoutubeにて動画を再生できます。実際に救急事案であった生の声も視聴できますので是非ご覧ください。視聴には通信費がかかります。



わが子を救った
救命処置



おとなの
心肺蘇生法



AEDの使い方



こどもの誤飲
心肺蘇生法

【感染防止のために】

新型コロナウイルス感染症は終息したわけではありません。すべての心肺停止傷病者は、何らかの病気に感染していることを前提に対応してください。いざというとき、応急手当を行う方の感染を防止するため、以下の点に気をつけてください。

- ① 自分のマスクがあれば着用しましょう。
- ② 意識や呼吸の確認は、倒れている人の顔と応急手当を行う方の顔があまり近づきすぎないようにします。呼吸の確認は、胸とお腹の動きを見て行います。
- ③ 胸骨圧迫を開始する前に、倒れている人の口と鼻に、布やタオル、マスクなどがあればかぶせましょう。
- ④ 応急手当を行う方が複数いれば、一人は部屋の窓を開けたりして、室内の換気をしましょう。

●倒れている人が大人の場合

胸骨圧迫のみを行い、人工呼吸は行わないでください。

●倒れている人が子どもの場合

人工呼吸の訓練を受けており、それを行う意思がある家族等は、胸骨圧迫に加えて人工呼吸を行います。

人工呼吸用マウスピース（一方向弁付）等があれば、活用しましょう。

◆救急隊に引き継いだ後は

- ① 口元にかぶせた布やタオル、マスクなどは、直接触れないようにして廃棄しましょう。
- ② 石けんを使い、手と顔をしっかり洗いましょう。
- ③ うがいをしましょう。

※119番通報後、救急隊が到着するまでの間に、指令課職員や救急隊員が電話でアドバイスをすることがあります。

※AEDの装着と使用については、これまでどおり変更はありません。

※これらの対応は、蘇生ガイドライン 2020 改訂とは異なる一時的なものです。